

2022 年版高等学校男子適用規則

(2022 年改定版) 令和 4 年 2 月 13 日

全国高等学校体育連盟体操部

日本体操協会審判委員会体操競技男子審判本部

次に示すもの以外は、2022 年版採点規則（日本体操協会発行）を適用する。

1, 終末技について A 難度・・・+0.10 B 難度・・・+0.20

2, 技の認定と難度の設定について

(1) 下記に示す技は、2022 年版採点規則とは異なる難度の認定および設定をおこなう。ここに示した以外の振動から倒立位になる技は採点規則通りである。

つり輪 ・ 屈腕ほん転逆上がり倒立（屈腕後方車輪倒立）：C 難度（グループ I）

・ 屈腕後ろ振り上がり倒立（屈腕前方車輪倒立）：C 難度（グループ I）

※屈腕の減点およびその他の減点，伸腕の捌きと同一枠

平行棒 ・ 前振りひねり倒立での 45°を超える逸脱：C 難度（グループ I）

※角度減点（0.5）およびその他の減点，倒立位の捌きと同一枠

鉄 棒 ・ 足裏支持回転倒立：A 難度（グループ III）

※角度減点およびその他の減点

(2) 下記の終末技は A 難度（グループ IV）とする。

つり輪，平行棒，鉄棒の前方・後方かかえ込み宙返り下り

3, 禁止技について

難度表に記されているジュニアルールにおける禁止技を示す●印は適用しない。

4, 加点について

あん馬を除く 5 種目において終末技の着地をとめた場合，E 審判によって 0.1 の加点を与える。

5, ゆかの 2 回宙返り技について

ゆかの 2 回宙返り技がない場合，0.1 の ND(ニュートラルディダクション)とする。

6, つり輪の力技に関して

D 難度以上の力静止技(グループ II 及び III)に対して，1 技につき 0.1 の加点を D スコアに行う。

※ただし，大欠点を伴う実施は不認定となり，加点の対象としない。

7, 補足

(1) つり輪，跳馬，平行棒，鉄棒において，1 名の補助者をつけることができる。

(2) 短い演技に対して

短い演技に対して，D 審判は決定点から所定のニュートラルディダクション (ND) を適用する。

高校適用において 7 技以上は ND なし。6 技以下は ND を適用する。

技数	ニュートラルディダクション (ND)	
	2022 年版採点規則	2022 年版高校男子適用規則
10 技	0	0
9 技	0	0
8 技	0	0
7 技	3.0	0
6 技	4.0	4.0
5 技	5.0	5.0
4 技	6.0	6.0
3 技	7.0	7.0
2 技	8.0	8.0
1 技	9.0	9.0
0 技	10.0	10.0